



図書館だより

ミステリー

R 8年2月号 図書委員会
11H 加藤・杉林
12H 清水・澤山



『珈琲店ターレーランの事件簿～また会えたなら、あなたの淹れた珈琲を』

岡崎琢磨 宝島社



京都の路地裏にひっそりと店を構える珈琲店「ターレーラン」。恋人と喧嘩してしまった主人公の青年”アオヤマ”は偶然に導かれて入ったこの珈琲店で運命の出会いを果たした。長年追い求めた理想の珈琲と、魅惑的な女性バリスタの”切間美星”に。ターレーランに持ち込まれる日常の謎を美星自身の聰明な頭脳を用いて、鮮やかに解き明かしていくのだ。そんな美星には、秘められた過去があった。この物語は第10回「このミステリーがすごい！」の大賞の最終候補作を大幅改稿した作品となっていて、ミステリー好きもそうでない人も楽しめる本だ。

『謎の香りはパン屋から』 土屋うさぎ 宝島社

大学1年生の市倉小春は漫画家を目指しながら、大阪のあるパン屋さんでアルバイトをしている。ある日、同じ店でアルバイトをしている親友とライブに行くはずだったが突然ドタキャンされた。それを不思議に思った小春は彼女の行動を振り返り、真実にたどり着く。クロワッサン、フランスパン、シナモンロール、チョココロネ、カレーパン…などのパンがモチーフになり、話に関わっていく。日常で起こる様々な謎に気付き、真相を解き明かしていく物語。



『爆弾』 呉勝浩 講談社



取調室での会話を中心に進む頭脳戦ミステリー小説で、微罪で逮捕された中年の男が、秋葉原の廃ビルで起きた爆発事件を予言したことをきっかけに物語は展開していきます。男は“これから更に二度爆発がある”と予言。それを防ごうと男に詰め寄るが、巧みな話術に翻弄される刑事たち。そんな中、男は四年前に自殺した刑事の名前を口にする。爆発事件と自殺した刑事にはどんな関係があるのか、限られた会話だけを武器に真実へ迫る頭脳戦が繰り広げられます。言葉で追い詰め合う男と刑事たちの戦いの圧倒的な緊迫感に、物語に引き込まれます。

『復讐の準備が整いました』 桜井美奈 朝日新聞出版

日常の中でひそかに進んでいく復讐を描いたサスペンス小説です。主人公は過去にある出来事によって心に深い傷を負い、その思いを胸に抱えながら学校生活を送っています。周囲からは目立たない存在だけど、内面では強い感情を抱え、少しずつ復讐する準備を進めています。派手な展開よりも心理描写が中心で、読んでいると主人公の苦しさや迷いが伝わってきます。復讐するのは正しいのか、人は過去を乗り越えることはできるのかと考えさせられる、高校生にも読みやすい一冊です。





読書をしようぜ！



「蜘蛛の糸」(芥川龍之助)を再読して

最近、芥川龍之助についての論評に触れ、「蜘蛛の糸」を再読してみた。わずか数ページの短編でありながら、仏教的世界観と人間の本質を鋭く描き出した、完成度の高い作品と改めて感じた。(芥川はやはり天才！)

物語は、極楽の蓮池を散歩するお釈迦様が、かつて一度だけ善行を行った大泥棒・カンダタを思い出し、地獄へと蜘蛛の糸を垂らす。カンダタは必死に糸を登るが、他の罪人たちが後に続いていることに気づいた瞬間、「これは俺のものだ」と叫び、彼らを突き放そうとする。その利己心こそが、(お釈迦様が)糸を切らせ、再び地獄へと墮ちる直接の原因となる。「エゴイズム」が人を救いから遠ざけるという思想が、分かりやすい形で表現されている。

「蜘蛛の糸」という天上と地獄をつなぐ糸は、人間に与えられた救済の可能性そのもので、それが切れる原因是、カンダタ自身の心のあり方としている。私は単なる勧善懲悪の物語とは思えないのだが。



今月の新着図書

図書館に見に来てね！

23歳の私が「福祉×スイーツ」で1億円企業をつくるまで：大瀬ゆゆ

偽善者：箕輪厚介

さあ、才能(じぶん)に目覚めよう 最新版：ジム・クリフトン

爆弾犯の娘：梶原阿貴

星を継ぐもの 新版：ジェイムズ・P・ホーガン

奇跡のバックホーム：横田慎太郎

ほどなく、お別れです 遠くの空へ：長月店音

成瀬は都を駆け抜ける：宮島未奈

仕事と人生を変える勝間家電：勝間和代

松岡まどか、起業します：安野貴博

転生したらスライムだった件 23：伏瀬



これから研究を始める高校生と指導教員のために第2版：酒井聰樹

高校教師のための「探究学習」ガイドブック：上山晋平

探究的な学びデザイン：酒井淳平

高校生のための「探究」学習図鑑：廣瀬志保

高校教員のための探究学習入門：佐藤浩章

お知らせ！



3学期の貸出は3月4日(水)まで
です。それ以降は返却のみとなります。

返却は3月13日(金)までに
お願いします
春休みの貸出はありません。
期限が過ぎている人は早めの返却を！